

佳作

## 臨海学校で学んだこと

群馬県 太田市立九合小学校六年 岡田 真裕子

私が、この夏休みの臨海学校で学んだことが、いくつかあります。

それは、みんなで楽しんでた、二日目の朝の集いの出来事でした。とつ然カーンという音がして、びっくりしてふりむいてみると、S先生がたおれていました。急に先生方が沢山集まってきて、足をあげて頭をひくくしたり、保健のU先生が、自分の上着をかけたり、毛布を持ってきてかけたりしながら、手当てをしていました。

私は気になっていながらも、先生のおっしゃる事を聞き、朝の集いに参加しました。それが、今私に出来ることだと思っただけです。

そして、五・六分後に救急車が来て、S先生が運ばれていきました。私は先生が連れていかれたあと、とても不安でした。なぜかという、私達は、その前の日の夜とても楽しくて、先生方に注意されたにもかかわらず、夜おそくまで起きていたからです。たぶん、先生はすいみん不足だったのだと思います。あれほど、I先生に

「早くねないと、次の日に、調子が悪くなってしまうよ。」

といわれたのに、それが守れませんでした。きつと私達のせいで、たおれてしまったのかなと思ひ、深く反省しました。

そして、記念さつえいをしているときに、校長先生のケイタイ電話が鳴り、校長先生が、「S先生の意識が戻ったそつだよ。」

と教えてもらい、心中のモヤモヤがすつと消えました。

そして、夕日がしずみ日が暮れるころ、私達は部屋にいました。その時になんと、S先生が元気にもどってきたのです。私は、心がはれつするほど、うれしかったです。そして、S先生が

「どうも、お世話をかけました。たおれると、あのような音が鳴るってわかって一つ勉強になったね。」

とおっしゃり、笑った顔を見て、心が軽くなりました。

先生は、ひんけつでたおれたそうです。そして、そのたおれたとき頭をつつたときのしよげきで、頭の所に白いガーゼのようなものが貼ってありました。私は本当に、大きなケガにならなくて良かったと思いました。

最後に私は、あなたおれたときに、先生方がれいせいに応急手当てをして、助け合っていたことに感動しました。

私は、この臨海学校で、みんなで助け合うということがどんなに大切かが、わかったような気がします。

そして、人にめいわくをかけないように、困っている人がいたら進んで助けられる様な、そんな人間に、なっていきたいと思ひます。

